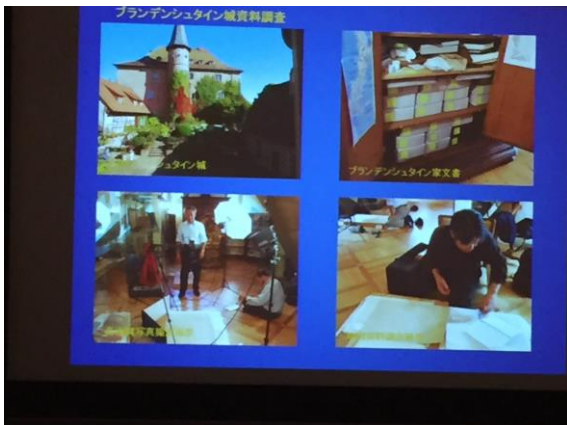


GL アクティブ（国内研修） 実施講座名 『書簡が語るシーボルト像』

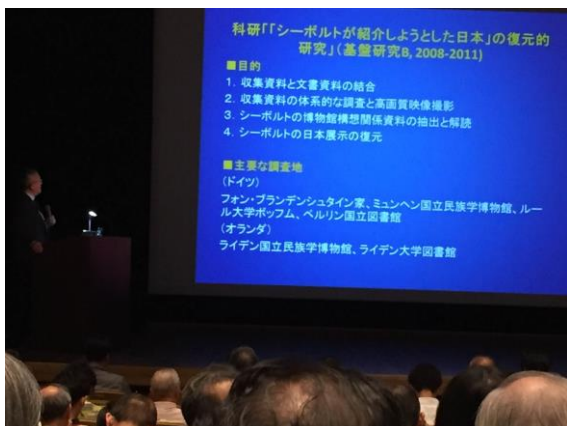
- 1 目的 シーボルトが晩年家族と交わした書簡を中心に、その時々シーボルトがおかれていた状況や心情を理解し、シーボルトの紹介したかった日本の歴史伝統文化について考える。また、私たちが紹介したい日本の歴史伝統文化を探求する。
- 2 日時 平成28年7月9日（土） 午後12時45分～午後3時00分
- 3 参加生徒 19名（1年）
- 4 場所 国立歴史民俗博物館（佐倉市）
- 5 内容 講師 宮坂 正英 先生（長崎純心大学比較文化学科教授）



講堂で、講演会第390回歴博講演会として、行われ、一般の方も200名近く参加していました。



シーボルトの子孫であるドイツ・ブランデンシュタイン家にあったシーボルト関係資料の整理の様子



「シーボルトが紹介しようとした日本」復元研究と主な調査地の説明

6 成果と課題

今回の講座に参加した生徒は、メモを取ったりして積極的に参加していた。講演後も、久留島先生（歴博館長）に質問する生徒もいた。その時々シーボルトがおかれていた状況や心情を理解し、シーボルトの紹介したかった日本の歴史伝統文化について考えることができた。また、紹介したい日本の歴史伝統文化を探求する意欲は高まった。

しかし、課題研究と今回の講座を結びつけて、研究テーマを見つけることができた生徒は少なかった。今後の講座等を通じて、見つけさせたい。